

【平成27年度学校評価：全体にかかわって】

1 <人権を尊重した接し方について>

児童生徒の個性を的確にとらえ、適切な活動ができていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計はおよそ9割で、高い評価をいただきました。保護者の方からは「子どもの個性を第一に考えていただいているのはとてもよい」「すごくよく性格をとらえてくださり、子どもも信頼しているのがよくわかります」等の声が寄せられています。これは、児童生徒の呼称（名前のさん付け）からはじまって、様々な場面で、児童生徒一人一人の人権を尊重した取り組みの方向を評価していただいているものと考えます。

一方で、C評価「どちらとも言えない」の合計が、昨年度の約5%→約11%と比率が増えてしまいました。また、保護者の方から「とても丁寧に熱心に支援して下さいますが、実態の捉えが甘いと思う」等のご意見や、職員からは「その子の好きなようにしていることだけが人権を尊重しているではなく、その子の伸びる力を信じて、時にはその子に迫った支援を行うことも必要」等の意見が出されています。

今後、**全職員で自分たちの取組を互いに振り返り、よりの確かな個性のとらえと適切な活動ができているかの見直しを進めたり、的確なとらえの研修をしたい**と考えております。今後ともお気づきの点をお聞かせください。

2 <個に応じた支援>

担任や学校職員の指導・支援は個々の児童生徒の「個別の指導計画」をもとに「分かりやすい学習、喜んで取り組む学習」をすることにつながっていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は9割を越えており、高い評価をいただきました。保護者の方からも「自分で色々学んだり、興味をもって行動するようになり嬉しい」「生徒の話に耳を傾け、適切に指導していただいています」等の声が寄せられています。これは、「個別の指導計画を活用した授業作り」を基本に、それぞれの場面での実践が進んできたためと考えます。

一方で、保護者の方から「喜んで取り組む学習」というところが『達成した喜び』ではなく『面白おかしい』になっている等のご意見や、職員からは「一人一人の活動が十分に保障されているかは疑問」等の意見等が出されています。

今後、「**分かりやすい学習、喜んで取り組む学習**」に向けて、**児童生徒が「疲れたけれど今日もがんばれた。明日の授業も楽しみだ」と達成感や満足感がもてるような授業をめざし改善していきたい**と思います。

3 <チームでの支援>

担任や学校職員が共通理解をもち、しっかり連携を取り合って一人一人の児童生徒について指導・支援を行おうとしていましたか。

保護者からのAB評価の合計が、昨年度の約82%→約86%と比率がやや比率が上がり、中でもA評価「とてもよい」が、昨年度の約32%→44%と比率が上がりました（小中高の各部で見ると小学部と高等部での比率が上がりました）。保護者の方からも「とてもよく対応してくださっている」等の声が寄せられています。これは、小学部および高等部での職員室設置等によって職員間の共通理解が日常的に行われるようになったことが大きな要因の一つと考えます。

一方で、保護者の方から「先生によって違いがある」「いつも同じ先生だけが頑張っているように見える」「子どもの担当でない同じクラスの先生に聞いても分からないことがある」等のご意見や、職員からは「支援が継続するような教員配置を」「教師が児童生徒について共通理解できる時間や場の確保が大切である」等の意見が出されています。

今後、**会議や行事等の精選、仕事分担の見直し等を行う中で、授業の打合せや教材研究等の時間を確保し職員間の共通理解を図りながら、より充実したチーム支援につながるよう努めていきたい**と考えています。また、**中学部においても職員室設置を検討していきたい**と考えています。

4 <保護者との連携>

担任や学校職員は児童生徒の生活の様子について伝えたり、保護者の方の思い・考えを受けとめたりして日々の学校生活の実践に生かそうとしていますか。

保護者の方々からのAB評価の合計は9割を越えており、高い評価をいただきました。保護者の方からも「伝えたいことを察して下さりこちらに返してくれるので、とても感謝しています」「『一緒にやっぴこう』という姿勢を感じます」「常に子どもの様子を知らせていただき、ありがたく思っています」等の声が寄せられています。保護者の方との日常的な連携が一層進んでいると思われまます。

一方で保護者から「発表場面だけでなく、普段の授業も参観したい」等のご意見や、職員からは「保護者への連絡では、『こんなことを試したいがどうか』『このような姿が見られたので、このように思い、このように対応したが』というように自分なりの願いや案をもって対応したい」等の意見が出されています。

今後、**今まで以上に真摯に保護者と向き合い丁寧に対応するとともに、お子さんの生活の様子からのとらえや支援方法をより日常的に保護者と連絡を取り合えるよう学校開放や授業参観のあり方を工夫していきたい**と思います。

<職員による不適切な行為（体罰、暴言、セクハラ等）を見たり聞いたりしたことがありますか。>

職員による不適切な行為については、今後ともお気づきの点がありましたら、どんな形でも構いませんのでお聞かせください。学校としては、**職員による不適切な行為や支援の方法等について、職員間で気づいたことを日常的に話し合っていきたい**と考えております。また、今年度も職員会で資料を読みあわせるなどして研修を重ねて参りましたが、**不適切な行為や非違行為が起きないように、今後も職員研修等を重ねていきたい**と思います。

【平成27年度グランドデザインの重点項目にかかわって】

＜Ⅰ 子どもの人権を大切にしたい（的確な捉えによる的確な支援）教育の実現＞

子どもの人権を大切にしたい対応や保護者への連絡などのやりとりはしっかりとできていますか。

保護者の方々からのＡＢ評価の合計は９割を越えており、高い評価をいただきました。保護者の方からも「子どもの気持ちに寄り添った対応にいつも感謝しています」「トラブルがあったとき、子どもの気持ち、親の気持ちも受け止めていただきながら対応していただき心強かったです」等の声を頂いています。

一方で、保護者の方から「友達とのトラブルなどの連絡が遅い」「担任の先生の休職等、情報が全く親に届いていないことがある」等のご意見も頂いています。

今後も、**引き続き保護者の方との連絡を密にすることや、必要な連絡は迅速に行うよう努めていきたい**と思います。

＜Ⅱ 学校生活（中身）づくり・授業改善＞

遊びの指導、生活単元学習、作業学習等は、児童生徒の願いが反映された内容で、子どもの発達につながっていますか。

保護者の方々のＡＢ評価が昨年度約８９％→約８７％とほぼ同じ比率でした。「今年度は特に先生方の工夫のおかげで子どものやる気が出ていて驚く毎日」「学校へ行くたびにいろいろなことを覚えてきて嬉しいです」等の声がある一方で、「もう少し個別学習の時間を作ったり、学習面の時間を増やしたりして欲しい」「学年の枠を越えて学習できないか」「障害のある子を教えるには専門的な力も必要」等の多くのご意見を頂いています。

職員の専門性を高めるための学習内容にかかわる研究については、本年度も各部やほほえみ教室において、大学の教授や教育事務所の指導主事を招き、「子どもの思いに寄り添った指導・支援」をテーマにしてご指導を頂きながら進めています。また、朝陽教室においては授業公開を実施し、近隣の小中学校や特別支援学校の先生方が参加しての授業研究会では、今後の授業改善に向けてのたくさんのご意見を頂くことができました。

今後も、**これらの授業研究等の研修を通して、児童生徒の願いが反映され、子どもの発達につながる学校生活づくりを目指していきたい**と思います。また、**学習形態のあり方についても検討していきたい**です。

＜ⅢＡ 誰にも優しい安心安全の学校生活（環境）づくり＞

子どもにとって生活しやすく、安心安全な環境整備の工夫がされていますか。

昨年度に引き続き、校舎や遊具の老朽化、プレハブ校舎、夏の暑さ対策（エアコン・網戸）、トイレの不具合、地震や地滑り等自然災害への不安、不審者侵入の不安など環境整備について多くのご意見を頂きました。県当局には、学校やPTAなどから機会あるごとにお問い合わせをしていますが、なかなか改善には至っておりません（校舎の窓の改修が行われたり、老朽化したアスレチックの撤去については予算化の話が出てきたりと、少しずつですが前進はしています）。今後も更に、**学校とPTAが共に協力し合って粘り強く、県にお願いをしていきたい**と考えます。

保護者の方々からは、学校の設備面以外に、「教室に先生方の机があったり、その上にも大切な書類関係やパソコンがあって、子どもたちの活動場所が狭くなっていると感じる」等のご意見をいただきました。今後、**児童生徒に配慮した教室環境整備に努めていきたい**と考えています。

＜ⅢＢ 誰にも優しい、安心安全の学校生活（環境）づくり＞

長養祭・儀式的行事は児童生徒にとって、少しでも分かりやすく、やさしい行事になっていますか。

保護者の方々からのＡＢ評価の合計は９割を越えており、高い評価をいただきました。保護者の方からも「行事に向けて心の準備ができるように事前に学習してくれる」「子どもたちにとって、よい活動の経験になっている。更に盛り上がる行事に期待する」「どの子も楽しく参加できるよう配慮いただいていることがよく分かりました」等のご意見をいただきました。これは、行事に向けて見通しがもてるような視覚支援を行ったり、長養祭では児童生徒一人ひとりの配慮を確認したりする等をすすめてきた成果だと考えています。

一方で、保護者の方から「小中高が一緒に行う場面では折り合いが難しい」等のご意見や、職員からは「３日間の長養祭はもう少し精選できるのでは」「小学部の児童には行事（儀式での発表やイベント交流）などで活躍する中学部高等部生の姿を見ることで、いずれ自分も～したいと憧れをもつ人もいる」等の意見も出されています。

今後、**これらの意見を参考にしながら、更にどの児童生徒にとっても分かりやすく、優しい長養祭・儀式的な行事の方向について検討していきたい**と思います。

＜Ⅳ 特別支援教育のセンター的機能の発揮＞

「個別の教育支援計画」を基に、学校や関係諸機関、地域の支援者等との連携が図られ、児童生徒にとって充実した支援会議になっていますか。

保護者の方々からのＡＢ評価の合計が、一昨年約６４％→昨年度７０％→今年度８０％と年々上昇し、支援会議の回数や内容が充実してきていることが伺えます。保護者の方から「困っていることに重点をおいて会議を開催していただき、ありがとうございます」「支援会議によって子どもの理解が親自身にも深まる気がしてとてもありがたいと実感します」というご意見が出されています。

一方で、保護者の方から「もう少したくさん時間が取れるといい」「先の見通しや、地域の実情の把握を踏まえた支援まで進めない」「支援会議の意味が分かっていない先生がいる」等のたくさんのご意見も頂いています。

今後、**効率的な支援会議の進め方を工夫したり、保護者や外部関係者等に適切な支援方法等を発信できるよう職員の研修を重ねていったりしたい**と思います。